



産業廃棄物処理計画書

令和5年 5 月 29 日

茨城県知事 殿

提出者

住 所 茨城県神栖市東和田25

氏 名 AGC株式会社 鹿島工場

工場長 折原 勝

電話番号 0299-96-5034(環境安全部)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	AGC株式会社 鹿島工場
事業場の所在地	茨城県神栖市東和田25番地
計画期間	2023年4月1日～2024年3月31日
当該事業所において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	16 化学工業 及び 21 窯業土石製品製造業
②事業の規模	化学工業 苛性ソーダ、塩酸、重曹、新フロン、フッ素樹脂、ポリオール類などの製造 窯業土石製品製造業 フロート板硝子、各種機能板硝子の製造 製造量合計 98万 t/年
③従業員数	721人(2023年3月末現在)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙2のとおり

注)表中のAGCグラスプロダクツ(株)鹿島工場(GP鹿島)は別事業所であるが、同一敷地内にあるため、同じ組織体としている。
旭トステム外装(株)鹿島工場(AT)は、同一敷地内にあるが、別事業所であり、別組織体として運営している。
なお、本処理計画には、GP鹿島、ATは含まない。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

[illegible]

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	<p>(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <p>別紙3のとおり</p> <p>注)ISO14001活動に基づき、分別活動を行っている。概要を別紙3に示すが、本分別は、「神栖市の分別基準」及び「鹿島共同再資源センター(株)の処理基準」に基づいたものである。</p> <p>また、工程毎に発生したものをそれぞれ保管している。</p>
②計画	<p>(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <p>同上。ISO14001活動に基づき、置場の分別状態、表示等の確認を実施している。</p>

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度(2022年度)実績】											
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	金属屑	硝子陶磁器	廃プラ	木屑	燃え殻	がれき類	水銀使用製品 産業廃棄物
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	1,720.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	1,331.79 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t
	(これまでに実施した取組) 硝子熔融炉の脱硫装置で回収する硫酸分を芒硝として回収し、ガラス原料として再利用を行っている。											
②計画	【目標】											
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	金属屑	硝子陶磁器	廃プラ	木屑	燃え殻	がれき類	水銀使用製品 産業廃棄物
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	1,700 t	0 t	0 t	0 t	0 t	1,300 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)											

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度(2022年度)実績】											
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	金属屑	硝子陶磁器	廃プラ	木屑	燃え殻	がれき類	水銀使用製品 産業廃棄物
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0 t	0.00 t	0.00 t
	自ら中間処理により 減量した産業廃棄物 の量	1525.40 t	311.49 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0 t	0.00 t	0.00 t
	(これまでに実施した取組) 硝子溶融炉の脱硫装置で発生する汚泥を脱水乾燥機にて含水率を低減している。 自社で焼却可能な廃油を工場内焼却炉で焼却している。											
②計画	【目標】											
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	金属屑	硝子陶磁器	廃プラ	木屑	燃え殻	がれき類	水銀使用製品 産業廃棄物
	自ら熱回収を行う産 業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により 減量する産業廃棄物 の量	1,500 t	300 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)											

自ら行う産業廃棄物の埋め立て処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度(2022年度)実績】											
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	金属屑	硝子陶磁器	廃プラ	木屑	燃え殻	がれき類	水銀使用製品 産業廃棄物
	自ら埋め立て処分又は 海洋投棄処分を行った 産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t
	(これまでに実施した取組)											

【目標】											
産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	金属屑	硝子陶磁器	廃プラ	木屑	燃え殻	がれき類	水銀使用製品 産業廃棄物
自ら埋め立て処分又は 海洋投棄処分を行った 産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0 t	0.00 t	0.00 t
(今後実施する予定の取組)											

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度(2022年度)実績】											
産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	金属屑	硝子陶磁器	廃プラ	木屑	燃え殻	がれき類	水銀使用製品 産業廃棄物
全処理委託量	6,752.37 t	273.57 t	0.00 t	46.26 t	10.47 t	182.22 t	346.49 t	178.93 t	34.06 t	130.85 t	0.75 t
優良認定処理業者への処理委託量	3,721.30 t	272.47 t	0.00 t	25.26 t	10.22 t	48.49 t	107.54 t	178.93 t	0.00 t	130.85 t	0.00 t
再生利用業者への処理委託量	5,559.81 t	91.79 t	0.00 t	0.00 t	9.47 t	182.14 t	154.51 t	178.93 t	0.00 t	130.85 t	0.75 t
認定熱回収業者への処理委託量	121.00 t	0.06 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	513.83 t	181.72 t	0.00 t	46.26 t	1.00 t	0.08 t	191.98 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t

(これまでに実施した取組)

再利用、熱回収の順により環境負荷の低い排出先の検討を継続して進めている。また、委託焼却先で発生するもえがら、灰分について、セメント等への活用によるリサイクル率向上を進めた。汚泥は委託した中間処理先で主として土壌改良材、流動化処理土(建築資材)として再生利用している。

また、委託処理業者には定期的に現地監査を実施している。

優良認定処理業者への委託量は、少しずつではあるが増加している。

②計画

【目標】											
産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	金属屑	硝子陶磁器	廃プラ	木屑	燃え殻	がれき類	水銀使用製品 産業廃棄物
全処理委託量	6,700 t	270 t	0 t	45 t	10 t	180 t	340 t	170 t	20 t	130 t	1 t
優良認定処理業者への処理委託量	4,000 t	270 t	0 t	30 t	10 t	50 t	100 t	170 t	0 t	130 t	0 t
再生利用業者への処理委託量	5,600 t	100 t	0 t	0 t	9 t	180 t	150 t	170 t	20 t	130 t	1 t
認定熱回収業者への処理委託量	400 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	500 t	170 t	0 t	45 t	1 t	0 t	190 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組) 優良認定処理業者の活用を念頭に、委託先の優良認定の資格手続きの進捗を見守る。											

※事務処理欄

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1000トン以上の事業所ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業所において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業所において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該物質を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取り組みを記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときには、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上ある時は、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がない時は、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物処理概要表

社内各部署で発生する廃棄物はその発生源ごとに組成が異なるため、組成を確認した上で以下の複数の処理を進めている。また、同じ処理でも組成により委託する中間処理業者は異なる場合がある。

廃棄物の種類	小分類	処理概要	備考
汚泥	芒硝	硝子原料として再使用	外数で有価物としての外販あり
	ゼオライト	焼却後リサイクル	
	その他の汚泥	粉碎後原料化	
		セメント原料	
		脱水後、セメント原料化	
		固化して埋戻材化	
		焼却、発電用熱として利用	
		焼却後セメント原料化	
		焼却後スラグ化	
		焼却後、埋め立て	
廃油	特定プラントからの廃油	自社焼却・熱回収	
	使用済溶剤	蒸留して製品回収	
		油水分離後焼却・熱回収	
	その他の廃油	焼却、発電用熱として利用	
		油水分離後焼却・熱回収	
		焼却後燃えがらを原料化	
		焼却後燃えがらをスラグ化	
廃酸		中和後、原料化	
		焼却後、燃えがらを原料化	
廃アルカリ		焼却後燃えがらをスラグ化	
		焼却、発電用熱として利用	
廃プラ		破碎・選別・圧縮後原料化	
		焼却、発電用熱として利用	
		焼却後燃えがらを原料化	
金属屑		破碎・選別・圧縮後原料化	
		洗浄後、原料化	
		燃焼後、燃えがらを原料化	
硝子陶磁器		再資源化(製品化)	
		破碎・選別原料化	
		再資源化(埋戻材)	
		燃焼後、燃えがらを原料化	
木		チップ化後バイオ原料	
		チップ化後原料化	
		焼却、発電用熱として利用	
がれき		粉碎・選別・圧縮後原料化	
		粉碎・選別・圧縮後埋立	
廃石綿		溶解後スラグ化	
水銀使用製品産業廃棄物		破碎・選別後原料化	

公害防止統括者(正) 工増長 部長
(代) 環境安全部 部長

[illegible]

※ 取り消し幅の施設は、休止あるいは廃止施設を表す。

注：法規上は公害防止統括者、公害防止管理者の選任及び公害防止組織表は必要ないが、工場内運営上実態に合わせて管理する。

<AGC(株)鹿島工場>

- 特別管理型産業廃棄物管理責任者
- 調整グループリーダー（法第12条により設置必要）
- 産業廃棄物処理管理者（法第12条により設置必要）
- 技術管理者（法第21条により設置が必要）

莊養愚 (醫學集藥物)

＜AGCグラスプロダクツ(株)鹿島工場＞

法第12条より設置必要だったが、溶剤の使用中止により不要となった)

(場内分別基準に記載されている分別の定義の部分の抜粋)

<分別の定義>

①可燃物	紙屑、木屑、生活ゴミ、繊維屑、雑芥などの可燃性ゴミ
②廃プラ(塩ビを除く)	廃プラスチックのうち再資源化Cで焼却できるもの(最大幅30cm以下のもの、かつ、塩ビ・ハロゲン系は含まない)
	フィルム系有価物 PE、PP樹脂をメインとした樹脂フィルム(酷い汚れ、紙類付着、社名の記入無きもの)
	バンド系有価物 PE、PP樹脂をメインとした樹脂バンド(酷い汚れ、紙類付着、社名の記入無きもの)
③塩ビ・大型廃プラ	再資源化Cで処理できない廃プラ類(塩ビ・ハロゲン系プラスチック類、最大幅が30cm以上のもの等)
④保温材・断熱材	グラスウール・ロックウール・シリカ系保温材
⑤混合・埋立廃プラ	複数の材質のものから出来ていて分離できないもの(例 プラスチック+金属製部品等)、およびリサイクルできない素材のもの
⑥リサイクル廃プラ	ストレッチフィルム、PPバンド、フレコンの無料引き取り3品目
⑦陶磁器屑・コンクリート屑	陶磁器類・コンクリート屑など
⑧ビン類・ガラス屑	ビン容器類
⑨鉄屑	金属物もしくは金属主体のもの。鉄さび・サンダー屑は設置してあるBOXにいれること。
⑩木屑	木製のパレットや木箱など
⑪廃油	
⑫紙	
⑬電機機器類	家電製品および電機製品、配電盤等
⑭蛍光灯	専用ドラムに入れ廃棄。(屋内保管)
⑮石綿含有廃棄物	アスベスト専用袋で2重に梱包し、専用コンテナに入れ廃棄。



委任状

令和 5 年⁵~~4~~ 月²⁹ 日

私は、次の者を代理人と定め、下記の権限を委任いたします。

(受任者) 茨城県神栖市東和田 2 5 番地
A G C 株式会社 鹿島工場
工場長 折原 勝

記

鹿島工場における廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく届出、
手続き等に関する一切の権限

(委任者) 東京都千代田区丸の内一丁目 5 番 1 号
A G C 株式会社
代表取締役 平井 良典

